

地球環境基金助成公演 環境ミュージカル“そして森は生きている PART II”沖縄公演 公演報告書

1) 開催日・開催地・開催状況

公演日時	公演場所	公演状況<観客数他>
2004年4月4日(木)	那覇市民会館(共催)	環境ミュージカル —沖縄からの発信「私達の地球憲章 ～そして森は生きている PART II～
1回目 13:00 から 15:00	大ホール	観客数 417人(招待者含む)
2回目 16:00 から 18:00	(沖縄県那覇市寄宮 1-2-1)	観客数 421人(招待者含む)
		入場料 指定席3000円 自由席1000円
		出演者・スタッフ数 156人
シンポジウム「異文化の認識-地球憲章の理念」		
参加者:公演の全参加者		
開催地・沖縄の参加者(沖縄 琉球国祭り太鼓、具志川高校のダンス部、琉球交響楽団、沖縄、浦添、豊見城の合唱団、国際交流協会、沖縄在住の外国人、小・中・高校生、環境団体、舞台関係スタッフの方々、)と東京の参加者(プロのキャスト、劇団員、研究生(小・中・高・大学生、スタッフ、同行の保護者、公演の観客の方々		
形式:パネルディスカッション		
内容:地球憲章委員の廣野良吉先生(成蹊大学名誉教授)より、「地球憲章」とは何かを今の地球が抱えている問題を捉えながら、「地球憲章」の認識と必要性を話して頂き、公演に参加することによって学んだ方々、公演を見た方々とともに考查し、21世紀の地球の環境保全と異文化の協調の可能性についての意見の交換をした。「自分達が地球上の責任ある一員だということを理解・再認識し、環境問題が自分達に差し迫った大きな問題だということを実感し、日常の中での無関心から脱却、まず身近でできることをはじめよう」ということを参加者がお互いに認識しあった。		

2) 来場者からの感想

- ☆ 大変素晴らしかったです。環境保全の大切さを感じ、自分達の環境問題への意識の薄さを改めて感じました。
 - ☆ これからはもっと意識、積極的に地球環境を守る必要性を感じていこうと思いました。もっと多くの人達に広めていってください
 - ☆ 私は、いつも食べ物を残してしまいます。でもこれを見て、これからは、食べ物を残さないで全部食べます(小学5年生)
- など、広い年代層の方から、同様の感想を頂きました。

3) パネラー 廣野良吉先生からのメッセージ

国連クラシックライブの皆さん

早速お手紙有難うございました。沖縄からお帰りになっても、直ぐ又、練習練習で毎日ご苦労様です。でも、公演が人々の心を捉え、将来に対する希望を燃えさせる役割を担うなら、苦労も苦労ではなくなるというものでしょう。僕も貴美子と共に本当にこの演劇と公演に感動しました。短時間に劇作化し、激しく厳しい練習を重ねて、公演を成功に導いてくださいました小池代表と皆さん、さらに那覇市の宮城さんご夫妻に敬意を表します。先日学会の大学院生部会の人々に流したものをここに送付いたします。僕は「そして森は生きている。PART II」に大きな夢と期待を持っています。廣野

小生は昨夜沖縄の那覇から帰京しました。小生の発案で実現しました「地球憲章」を劇作化した演劇「そして森は生きている。PART II」舞台が、環境大臣、沖縄県知事のメッセージと言う形でご支援を得て、大勢の那覇市民の参加の元に市民会館で公演されて、素晴らしい反響でした。特に、那覇市の中学生、高校生、大学生とその関係者や管弦楽団も東京勢に参加してくださり、若い人々とその両親たちに「地球憲章」の理念を少しでもわかってもらうことが出来たという手ごたえがアンケート回答を通じて伝わってきました。今後この演劇内容を改善しつつ、今年日本全国で公演活動を行い、来年は近隣のアジア諸国やさらに欧米の大都市で、地元の地球環境保護団体と一緒に展開できたらいいなあと考えています。「地球憲章」公演を沖縄から発信したのは、第二次世界大戦で沖縄がわが国で唯一の陸上戦が熾烈に戦われ、日米双方で多大な人的損害がみられたのみならず、自然・都市・社会環境破壊が最大規模に達したところだからです。二度とこのような悲劇を繰り返してはならないという気持ちからです。環境教育は同時に平和教育であり、人権教育であり、さらに一昨年秋ヨハネスブルグ・サミットで小泉総理によって提唱され、その後国連総会で採択された「持続可能な開発のための教育」です。今後東京での公演の時には、是非日本開発学会や日本評価学会の院生部会の多くの方方にも、お時間を作ってご覧になって戴くか、意欲ある方にはご自分で演劇にご参加下さい。必ずや大いに感動することでしょう。 廣野良吉

4) 公演レポート



パンフレット表紙

環境大臣 祝辞

この度、「2003年度 生命のコンサート」が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

地球環境問題の解決が重要な課題とされる中で、NPO 法人 国連クラシックライブ協会は、舞台芸術活動などを通じ、生命と平和の大切さを伝えています。特に、2000年から公演されている環境ミュージカル「そして森は生きてる」では、森林をはじめとする地球環境の大切さを訴えています。このような活動を続けていらっしゃる関係者の皆様に、深く敬意を表します。

森林の保全是、生物多様性の保全、地球温暖化対策などにも関連する重要な課題です。このミュージカルの開催地である沖縄にも、マングローブ林をはじめとして、貴重な動植物が息づく豊かな自然環境が多く存在しています。

こうした中、このミュージカルが、多くの人々に森林の大切さや、地球環境の問題を考えていただくきっかけになれば、非常に有意義であると思います。

結びに、ミュージカルのご成功と、関係者の皆様の更なるご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

環境大臣

小池百合子

ご祝辞

あいさつ

このたび、特定非営利活動法人国際連合活動支援クラシックライブ協会の主催により、生命のコンサートオリジナル環境ミュージカル「そして森は生きてる」の沖縄公演が開催されますことを心からお喜び申し上げます。

このミュージカルは、広く多くの市民に少しでも森林保全の大切さを訴えようと企画されたもので、舞台参加の青少年、里山を守る会のボランティア、観客達が一体となって、地球に住むことの幸福を感じる舞台として好評を得ており、各地で多くの方が鑑賞したと伺っております。

人類が科学技術の発展に伴い生産活動の高度化と社会生活の利便性を追求してきた結果、世界各地における森林破壊に象徴されるように、地球環境は、今、大きな危機に直面しております。その中において、地球環境の危機とお互いの生命との関わりについて、子供から大人まで身近に感じられるように取り組まれていることは素晴らしい試みだと思います。

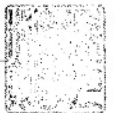
参加者も観客もこの作品を通して、自分たちが地球上の一員であり、環境問題が人類に共通の課題であることを再認識し、森林に対する関心をより一層高めていただくことを期待します。

この活動は、2001年2月の武蔵野市を皮切りに、関東近県から全国展開に向け一歩ずつ進み、今回、沖縄県でコンサート・シンガジュムとも引き継がれることになりました。経済、学術、文化及び平和等様々な分野で、我が国のみならずアジア・太平洋地域の社会経済及び文化の発展に寄与する地域の形成を目指す本県において、国連広報活動の一端を担いながら、環境、教育及び国際交流を目的としたこのような公演が開催されることはまことに有意義なこととあります。

最後に、本公演の開催に尽力された関係者の皆様に敬意を表するとともに、公演の御盛會を祈念申し上げ、私のあいさつといたします。

平成16年4月吉日

沖縄県知事 稲嶺 恵



環境ミュージカル
—沖繩からの発信
「私達の地球憲章 ～そして森は生きている PART II
沖繩公演を応援して下さった皆様
(シンポジウム参加者)



ご挨拶

2004年生命のコンサート・環境ミュージカル
そして森は生きている PART II 沖繩からの発信
「わたしたちの地球憲章」

「夢があり、希望があれば、人間が考えることは人間が解決できる。皆で信じて行こう!」

まず最初に、本日の公演開始にあたりまして、地元沖縄県民の皆様から大きな応援をいただきましたことを心より感謝致します。当協会は、劇団YPA、環境団体、オーケストラ、ダンス・合唱には地元の合唱団、市民の方々のご協力を得て、2001年東京都武蔵野市、2002年千葉県稲城市、2003年埼玉県川口市において開催しました。

環境ミュージカルをとおし、地球環境の保全を呼びかけて行く活動を行なっております。まず「そして森は生きているPART II」では、どんなに科学・文化が進んでも、人が大人になるのに時間がかかるのと同じに、木が育って森になるには何百年の時間が必要な事であり、だからこそ、今、私達はこの地球上に住む全ての生命を大事にしていくことの重要性を強く訴えてきました。

今回「地球憲章」を元にPART IIでは、環境に対する認識をさらに一歩進め、私達一人一人が地球に住む人類の一員として環境問題を自覚しなければならない時代になり、そして未来社会に対して、責任を負うことを意識しなければいけないという「地球憲章」の精神を次世代に伝える事を目的として製作いたしました。

市民参加のミュージカルの利点は、出演者一人一人が目的を理解し、また出演者の友人、家族等の方々に観賞してもらいそのことにより作意の目的・趣意の輪が大きくなることにあります。

今回東京からの、指揮者・音楽家3人・声楽家3人・元劇団四季団員2人・ダンサー1人・劇団YPA20名、スタッフに、地元のオーケストラ22名・合唱団40名・高校生のダンス14名・在日外国人2人の皆様に参加をいただき、さらには琉球国祭り太鼓の皆様に華を添えていただきます。

「地球憲章」の持っている理念が観客の音響にできるだけ分かりやすく伝わってくれたらと願いながら舞台を創りました。日本で最も豊かな自然を持つ沖縄から日本中へ、さらには世界中へ「地球憲章」に訴げ、今私たちが直面している環境問題をより身近なこととして、一人一人が責任を感じていけるような輪が広がっていくことを願ってやみません。

地域のホール、学校において上演できるように考えて作品をつくりました。音響のご理解を頂戴して沖縄からの発信が、各處にてひろがりますよう、応援をよろしくお願い致します。

重ねまして、ご挨拶・ご協賛いただきました関係者各庁、企業のおさま、そして本日の舞台に出演いただく沢山の皆さま、事務局長の皆さま、本当にありがとうございました。

本日の舞台をどうぞ最後までお楽しみいただければ幸いです。

主な参加団体(沖縄)

エイサー	琉球国祭り太鼓
ダンス	沖縄県立具志川商業高校 ダンス部
オーケストラ	琉球交響楽団
合唱団	女声合唱団 華
	女声コーラス はまゆう
	女声合唱団 星砂
	浦添市民合唱団
	混声合唱団 いーすたん
	沖縄男声合唱団
	豊見城混声合唱団

そして森は生きているPART II

あらすじ

とある私立の女子学園、生徒たちは海外青年協力隊経験のある、熱心教師の影響で世界の恵まれない子供達に教育支援の為、毎月一人500円づつ出してボランティア活動をしているつもりでいる。もちろん日常の彼女たちの興味は、ボーイフレンド・洋服・化粧・少し勉強と受験といったところ。携帯電話は必需品。そんななかで、教育支援をしているアラブの少女に連絡がとれなくなった。

どうも戦争が起きているらしい。

では国際会議(国連を想定して)はどんなになっているのだろう。との問いかけの中で自分たちが少しづつ世界へ目を向け、環境問題も、自分たちでできることから始めよう、気が付いて行くという設定です。バックにはそれぞれシーンに合わせて映像が展開します。

PROGRAM

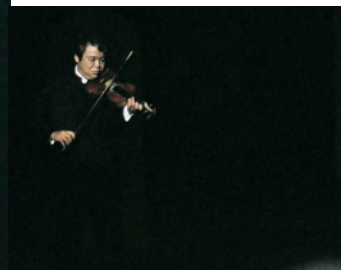
- オープニング：愛の☆地球 合唱 オケストラ演奏
- 教室・環境授業のシーン：エイサー
- アラブの少女のシーン：約束(バイオリン)
- 兵士のダンス①
- 教室・ホームルーム：生徒のダンス
- 国際会議(環境問題)：会議の6重唱 (合唱つき)
- 兵士のダンス ②
- アラブの少女のシーン：約束(少女が歌う)
- 教室・授業(戦争そして生命)：子供達のエイサー
- 国際会議(公正な社会と経済)：会議の6重唱(合唱つき)
- 兵士のダンス③古代アラビアふうのダンス
- アラブの少女のシーン：約束(オーケストラ・母親ソロ)
- 休憩—
- 教室・授業(民族そして戦争)
- 国際会議(民主主義・非暴力と平和)：会議の6重唱(合唱つき)
- アラブの少女の死 悪魔のダンス
- 国際会議場(戦いは終わらだ!)：世界の代表に刺つて入る女学生達; 勇気を持って!(合唱)
- フィナーレ
- 生命の参加(廃棄物のバケツリレー)：勇気を持って(合唱)
- 愛の☆地球(合唱)
- エイサー・ダンス・国連賛歌
- *地球憲章の精神 お話 地球憲章推進日本委員会 廣野良吉
- 全員合唱(会場の皆様も一緒に)：愛の☆地球



平和な地球
-祭 沖縄 エイサー



戦争・・・兵士達の戦い
～日本の高校生がフォスタープランで援助しているアラブの子ども・ミーシャ～





地球、環境について学ぶ学生達
.. 国際会議ではいったい何が問
われているのだろうか？

クラブ活動
...環境問題について討論
「地球を守るために私たちに何ができる
のだろうか？」



国際会議の様子
..自国の保全が大事、決
裂する各国の首脳陣



国際会議の様子 ... 大切なことは？





生徒のダンス
～掛け合い～



侵されていく地球

- 兵士のダンス(戦争) -
- 悪魔のダンス(トルル) -
- 戦いのダンス -





みんなで力を合わせて…バケツリーレー
地球を守るためのメッセージ
「私たちにできることから始めよう！」

そして 森は生きている！



フィナーレ ジョイフル・ジョイフル

シンポジウム 「私たちの地球憲章」
パネラー 廣野良吉先生
成蹊大学名誉教授
地球憲章委員



本日は、環境ミュージカル
そして森は生きている Part II 沖縄公演に
ご来場いただき、有難うございました。
沖縄から発信された
私たちの愛の☆ 地球への
沖縄の方々の大きな、そして温かいご支援は、
来年は、日本海の古都、金沢に
受け継がれていきます！

有難うございました

